



大阪府遊技業協同組合  
「東日本復興支援『吉本新喜劇 in 大船渡』事業



大阪府遊技業協同組合  
理事長  
平川容志さん



大阪府遊技業協同組合  
副理事長  
河本勝弘さん

選考理由

社会貢献活動審査委員会  
委員  
野口昇氏



大阪府遊技業協同組合は、東日本大震災発生直後から、復興支援活動を開始し、組合内すべてのホールに働きかけて支援金を募り、これを日赤を通じて提供。また、被災地の小学校にクレヨンや発電機・屋外放送機器などを贈呈してきた。

この実績のうえに、平成24年には、被災地の小学生に笑いを届けるため、「吉本新喜劇」を大船渡市で行うことを企画。現地の教育委員会などの協力を得て、2000人近い小学生の参加を得て実施し大きな成果を挙げた。この事業の企画の独創性とその意義と実績を高く評価したい。

「被災地の子どもたちに  
笑顔を」をテーマに  
きめ細かな支援策を実施

被災地へ、実際に不足しているものを贈呈

東日本大震災の直後から、大阪府遊技業協同組合(以下、大遊協)と傘下ホールは支援活動を開始した。最初に着手したのは「愛のひとにぎり運動」である。お客様からひとにぎり分のパチンコ玉を提供していただき、それを原資として義援金とするものだ。

大遊協では、阪神淡路大震災、新潟県中越地震の際も同様の支援を行っている。

しかし、この支援策には内部でも、被災地へお金を贈るだけの支援でよいのかという疑問符もついていた。

そう考えたのには理由がある。1995年の阪神淡路大震災の体験だ。

「あのとき一番怖かったのは他の地域の方々から忘れられてしまうことでした。だから、実際に被災者の方と顔と顔を見合わせて、『見ているよ』と声をかけるような支援をしたい」という思いが大遊協にはあった。

また、被災地には本当に必要な場所に必要なのが届かないという現実も知っていた。そこで、ファン感謝デーの幹事会社であるそごう・西武とも協議して、企画が提案された。

その第一弾が、平成23年9月の「未来ある子どもたちに笑顔を届けよう！被災地の小学校にクレヨンを！」をテーマとした感謝祭である。感謝祭セット賞品を用意し、その売上げの一部で、復興支援物品を現地の小学校に贈った。

物品の選定には特に気を使い、事前に岩手県の教育委員会と念入りに打ち合わせを行った上で、確実に不足しているものを選択した。物品は発電機、カラートナー、クレヨン、物置、延長コード、ハードルなど、約40種類に上る。また、大阪に避難している被災地の子どもたち(親子200組)を大阪ドームでのプロ野球「楽天 VS オリックス」戦に招待した。試合前には、選抜された子たちがエスコートキッズを務め、選手と一っしょに入場をした。



2000人の小学生を招待し開催した「吉本新喜劇」公演



子どもたちは普段テレビで見る芸人を間近で見て、大盛り上がり



「吉本新喜劇」公演を告知するチラシ

大船渡市での吉本新喜劇公演で、子どもたちに笑顔を

翌年は大阪らしい支援策を打ち出した。岩手県大船渡市での「関西お笑いの殿堂・吉本新喜劇」公演である。大遊協の申し入れに吉本興業も快諾してくれた。大船渡市や教育委員会からも全面的な協力を得て、公演の観覧を課外授業として位置づけられることになった。

公演は2012年6月28日、大船渡市民会館リアスホールで行われ、午前・午後の2回公演で2000人の小学生が招待された。

第一部は最初に地元小学校を代表して、末崎小学校の子どもたちが「よさこいソーラン」を披露。続いて、震災後に何度も被災地を見舞っている宮川大助・花子さんが、避難所訪問の体験をテーマにした自作の曲を歌った。そしてお笑いの本番は、くまだまさし、笑福亭鶴笑、TASUKUなどが登場。マジックあり、ギャグあり、落語ありとバラエティに富んだお笑い芸を披露すると、会場は一挙に盛りあがっていった。

第二部の吉本新喜劇はこの日のために作られた「明るい未来と笑いは大船渡から」と題した芝居で、家出していた娘が借金取りから逃れるために赤ちゃんを連れて戻ってくるドタバタ劇である。悪人が登場すると会場から「変な人が来た」と声上がり、舞台と会場が一体になっての大盛況。新喜劇を初めて見た子どもたちは「生でお笑いを

見るのは初めてだけれどたくさん笑いました」と笑顔で答えていた。

また大遊協は感謝デーの一環として「復興支援3.11 from KANSAI」にも参加。出展ブースでは、大阪に避難している子どもたちを中心にみんなでこいのぼりを作り、故郷に贈るといったイベントが行われた。書道家・日吉丸さんが無地のこいのぼりに「まだまだ、これから」と揮毫したあと、子どもたちが思い思いの色のペイントを選んで胴体部分に手形でうろこをかたどっていった。最後に漫才キングコングの西野亮廣さんがこいのぼりの顔を描いて完成。作品は前述のイベント会場にも飾られたあと、大船渡市に寄贈された。

大遊協では、「忘れていない」ことを発信し続けるため、今後も企画を練っていききたいとしている。



大船渡市文化会館に飾られている、子どもたちが作ったこいのぼり